

ま え が き

わたしは毎朝、目覚めて最初に目にする新聞記事にたいへん興味を抱いているが、近時の紙面には、奈良の高校生による自宅の放火に伴う母親・妹の焼死事件、東大阪大学の男子学生による女子学生をめぐるトラブルから生じた仲間の殺人事件、徳山工業高等専門学校男子学生による女子学生殺人事件など、ほとんど毎日のように、目を覆いたくなるような殺人事件が踊っている。警察庁の発表によれば、平成十七年度以降、若年層による殺人事件がほぼ二十件に達したという。これらはわたしの学生時代にはまったく考えられなかった、青少年の倫理感の欠如、生命の軽視による現代の世相を反映した特徴的な事件と一般化できる不祥事であろう。

とくに奈良の事件は偏差値の高い進学校に通う高校生による事件で、受験勉強に明け暮れて倫理感を喪失した結果の不祥事かもしれないが、東大阪大学に通う学生に

よる事件にかかわった学生のひとりには、高校生のときに生徒会長もつとめていた常識人だから、彼の心に健全で豊かな精神は醸成されていたはずである。にもかかわらず、彼は仲間のブルドーザーによる殺人行為に加担しているのだ。また、徳山の高専の男子学生による女子学生の殺人は何を可言わんやで、彼は人間の生命を何と考えているのであろうか。

このような現代の若者の言動を見ると、彼らは各自が生きていくうえで確固たる人生哲学ないし信仰（宗教観）を堅持していないばかりか、生命の尊厳さ、人間がこの世を生きる意味など、まったく関心外の課題なのであろう、と愚考される。まことに嘆かわしい社会現象としか言いようがないが、このような未発達で未成熟な精神しか持ち合わせていない学生が最近、急増しているということは、彼らがこれまでにかかわってきた教育機関の教育方針や教育内容などが少なからず関係しているのではあるまいか。その意味で、現代の若者のこころの教育を担う高等教育機関の役割は、決して小さくはないのだ。

そこでわが京都光華女子大学が実践している教育の内実に目を向けると、本学は「仏教精神に基づく女子教育」という建学の精神に立脚した、次のような「教育目標」を掲げて、人間教育と専門教育という二本柱のもとで教育展開をしているわけだ。

本学は、人間の崇高な精神活動によって創造された価値（文化）の追求を根底において、自己の未来を志向しながら、同時に他者への思いやりをもって能動的に行動できる、心豊かな21世紀を生きるにふさわしい女性の育成を目標にする。

ここで専門教育の領域については措くとして、人間教育の領域に言及すると、本学では、上記のごとき建学の精神に基づいた「教育目標」のもとに、豊饒な心もちながら理性的判断のできる、一個の人格者として行動のできる女子学生の育成を最重点に置いて、毎年、「宗教講座」を五回催行している。具体的には「学長講話」が一回と、「宗教講座」が四回実施されるわけだが、それは極言すれば、宗教的精神に立脚して言動ができる、現代的女性としての精神の涵養を目的にして実施される、本学独自の講演会といえよう。

本年度も、このような目的で催された「宗教講座」が成功裡に無事、終了した。「真実心」第二十八集に収載された講演数は全五編。みなさんの未知の好奇心を刺激する力作ぞろいで、そこには宗教的世界が余すところなく語られているうえに、宗教的精神も随所に横溢していて、それらは格好の読み物ともなっている。

どうかみなさん、この『真実心』に収録された諸講話に、今後は読者としてかわって、これから歩む皆さんの人生行路に必要な手がかりを貪欲に吸収して、みなさん各自の人生が豊饒になるように活用されることを、わたしは衷心より願ってやまないものである。

京都光華女子大学・
同短期大学部

学長 三村晃功